

< 早春の出会い >

桑原紀子

三月の半ば、今年も、文庫に来る子ども達と蛙の卵を探しに行きました。

野津田公園を通り抜け、図師の東京都保全区域の尾根を下ると、山間の谷戸に、田んぼや湿地が広がっています。

さあここが目的地。13人の子も達はもうおなかぺこぺこです。それでも、目の前の小さな池をのぞきこまずにはいられません。

「あっ、あった！」少し濁った池の隅にひも状の卵塊が沈んでいるのが見えました。落ちそうになりながら卵をすくったり、棒を見つけてきて引っ掛けたり、両手にすくって見せてくれたのは、ひも状の寒天質に包まれた黒い点々の行列、ヒキガエルの卵です。

下見の時にはなかったのに、雨と風の、春の嵐のようだったこの3日間で、産卵したのです。

土手にリュックをおろしてお弁当を食べ終わると、子ども達は早速探検に出かけました。

段々になっている田んぼの溝には水が溜まり、山側に近づく、その水溜りの中にアカガエルの卵塊がいくつも見つかりました。ヒキガエルのようにひも状ではなく、黒い点々の卵が透明なゼリー状の膜に包まれています。昨夜産んだばかりの新鮮なのや、

もう小さなオタマジャクシになって群れているのもいました。

子ども達はオタマジャクシをすくったり、泥んこにな



って湿地に入り込んだり、オタマジャクシに負けない位、(春のいきもの)という感じで谷戸に溶け込んでいます。

ひとりの女の子が動きを止めています。運動靴に蝶がとまったのです。黒い羽の、縁にブルーの筋があるルリタテハです。越冬蝶なので、無事冬を越し、日向ぼっこに出てきたのでしょう。昆虫が好きなNちゃんの靴に止まったのです。

「じっとしててね」近づいてカメラを向けると、蝶はヒラリと飛び立ち、側の丸太に止まりました。

Nちゃんはそっと近づくと、

しゃがんで、蝶に手を差し出しました。少しずつ距離を縮めても、蝶は逃げません。やがて蝶はNちゃんの人差し指にそっと上がってきたのです。私は息を殺して見つめていました。Nちゃんは蝶のとまった指を静かに静かに持ち上げて、胸の所まで持ってきました。私もそっとカメラを向けました。

レンズの中で、Nちゃんが緊張した顔で微笑んでいます。蝶は安心したように羽を広げて止まっています。

ふたつの命が触れ合っています。Nちゃんの嬉しさが私にも伝わってきました。

